

2008年4月1日
北海道ガス株式会社

北見地区天然ガス受け入れ・供給施設 北見LNGサテライト基地の建設について

北海道ガス株式会社（本社：札幌、社長：大槻 博）は、2009年3月～8月に実施する北見地区の天然ガス転換作業に向け、都市ガス原料となる液化天然ガス（以下LNG）の受け入れ・都市ガス供給施設となる「北見LNGサテライト基地」の建設工事を今月から本格的に開始いたします。

天然ガスは地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、人体に有害となる一酸化炭素を一切含まない、地球にも人にもやさしいクリーンエネルギーです。当社では、北海道における天然ガスの普及を通じて、快適で豊かな暮らしと都市づくりに貢献してまいります。

【北見LNGサテライト基地の概要】

1. 建設地

北見市中ノ島1丁目3番12号（現北ガス北見工場敷地内）

2. 敷地面積

約7,600m²

3. 主要設備

LNGタンク（100kl×0.99MPa×3基）、LNG気化装置（1,400kg/h×3基）、
熱量調整設備、付臭設備、管理棟等

4. 建設スケジュール

2008年4月 北見LNGサテライト基地着工

2009年2月 北見LNGサテライト基地完成

2009年3月 天然ガス供給開始

現在の北見工場内の既存設備は、北見地区の天然ガス転換が終了後、球形ホルダー2基を残し、撤去する予定です。球形ホルダーは都市ガスの貯蔵タンクとして引き続き利用します。

以上

< 参考 >

【北見地区天然ガス転換作業の概要】

お客さま件数	約 1 万 9 千件
作業期間	2009 年 3 月 ~ 8 月
ガスの種類	現在の石油系原料を改質した製造ガスから天然ガスに変更します。 現在: 4B ガス (15.06978MJ/m ³ N) 天然ガス: 13A ガス (46.04655MJ/m ³ N) 天然ガス化されることで熱量が上がります。
今後の主なスケジュール	2008 年 5 月から家庭用のお客さまの所有機器情報調査を開始します。 転換当日を想定したガスの供給・遮断テストを今年 3 月から開始しています。 業務用のお客さまの所有機器情報調査を昨年 10 月から実施しています。
天然ガスの輸送・受入方法	苫小牧勇払産の天然ガスを産地で液化して、鉄道タンクコンテナ等で輸送します。

【天然ガスについて】

天然ガスは、埋蔵量が豊富であるうえに、石油と異なり世界各地で産出されることから、供給面・価格面での安定性に優れたエネルギーです。また、燃やしても空気を汚染する硫酸化物 (SO_x) や煤じんを一切出さず、窒素酸化物 (NO_x) の発生量も少量です。そして地球温暖化の原因といわれている二酸化炭素 (CO₂) の発生量も少ないことが高く評価されています。さらに成分に人体に有害な一酸化炭素 (CO) を含んでいません。天然ガスは安全でクリーンなエネルギーとして期待されています。

天然ガスのクリーン性(燃焼排ガス量比較)



【LNG(液化天然ガス)について】

天然ガスの輸送方法には気体のままパイプラインで輸送する方法と、液体にしてタンカーやローリーなどで輸送する方法の 2 種類があります。生産地から近い場所へはパイプラインで輸送するのが最も効率的ですが、遠距離の場合には、タンカーやローリーなどで輸送する手段がとられます。

LNG は天然ガスをマイナス 162℃ まで冷して液化したもので、体積が気体の天然ガスの約 600 分の 1 になります。このため輸送効率が上がり、大量輸送が可能となります。

LNG = Liquefied Natural Gas

【北海道ガスの天然ガス転換事業の概要】

1. 天然ガス転換実績

1996年の札幌市厚別区を皮切りに、2005年までに道央圏（札幌地区、千歳地区、小樽地区）、2006年に函館地区の天然ガス転換を完了しています。札幌・小樽・千歳地区で供給する天然ガスは、苫小牧市勇払地区で産出される天然ガスをパイプラインで輸送しています。函館地区では、千葉県の東京ガス(株)袖ヶ浦工場から専用内航船「ノースパイオニア号」で液化天然ガス（LNG）を輸送し、使用しています。

地区	期間	転換完了件数	天然ガスの輸送・受入方法
札幌地区	1996年5月~2005年6月	約44万2千件	苫小牧勇払産の天然ガスを産地から気体のままパイプラインで輸送し、当社の「北広島供給所」等で受け入れています
千歳地区	2002年3月~5月	約1万7千件	
小樽地区	2005年6月~12月	約3万6千件	
函館地区	2006年2月~12月	約6万7千件	千葉県にある東京ガス(株)袖ヶ浦工場からLNGを内航船で輸送し、当社の「函館みなと工場」で受け入れています

天然ガスパイプライン



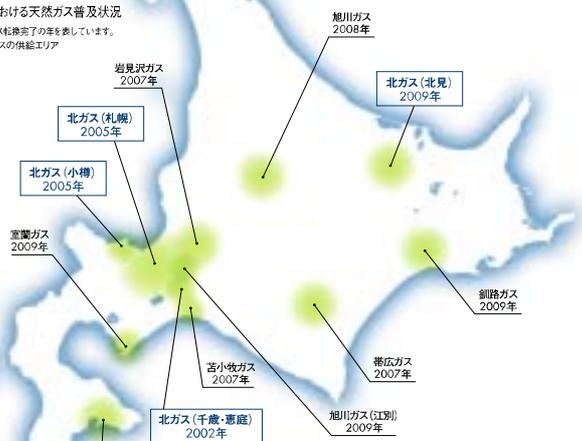
ノースパイオニア号



2. 北海道ブロック熱量変更共同化事業

当社は北海道内の都市ガス事業者が共同で天然ガス化を進める「北海道ブロック熱量変更共同化事業」に参画し、各事業者への技術指導やガス機器調整技術員の派遣を通じ、北海道における天然ガスの普及促進に努めています。

■北海道における天然ガス普及状況
 ※年数は天然ガス転換完了の年を表しています。
 ※□は北ガスの供給エリア



北海道ブロック熱量変更共同化事業とは
 北海道内の都市ガス事業者のうち、天然ガス転換を計画している7事業者（北海道ガス、帯広ガス、苫小牧ガス、岩見沢ガス、釧路ガス、室蘭ガス、長万部町）がガス機器調整作業員を相互に派遣し、天然ガス転換作業（都市ガスの熱量変更作業）を共同で行う事業。